

ふれあい・わかちあい・わたしたちの地域

そよかせ

2005年

発行

社会福祉法人 偕恵園
偕恵学園広報委員会

横浜市旭区上白根町 783

TEL 045-951-3436

FAX 045-955-5261

E-mail kaikei@estate.ocn.ne.jp

「施設と地域について」

～ 地域の連帯を願い求めて

皆様はじめまして。私は「横浜福祉ネットワーク」と言う団体に所属し、オンブズパーソンとして原則的に月一回、偕恵学園を訪問させて頂いております。

「横浜ふくしネットワーク」とは、知的障害者施設を中心とした横浜市内の複数の施設が加盟している団体で、加盟施設にオンブズマンとして、弁護士や司法書士その他施設に関わりの無い一般市民が定期的に訪問し、施設利用者の方々から直接お話をうかがい、施設にその声など伝えるなどして、利用者の方々により豊かに暮らしていただくことを主な目的として活動しています。

この活動に参加するようになって4年になり、これまで幾つかの施設のお邪魔させて頂いておりますが、福祉の素人であり、施設の部外者と言う立場で感じる雑駁な感想を点述べてみたいと思います。

それは施設が地域にありながら外部との接点が少ない、言い換えれば施設が地域から孤立しているように感じられるという点です。抽象的な表現になりますが、施設を訪問しても地域の一般の方が日常的に関与されている姿はあまり見かけませんし、また、利用者の方々も地域に溶け込んでいる様子を感じたこともほとんどありません。ただしこれは、本質的には施設側のせいでも地域のせいでもなく、これ迄の日本の福祉行政の施策の問題であったのでしょうか。しかし、様々なハンディのある方々などが地域から隔離されている社会と、地域の中であたりまえに暮らしてゆける社会とでは、地域の豊かさに大きな違いがあるように感じます。

やや極端な例かもしれませんが、東京都小笠原村は本州から南に1000km離れた洋上の孤島で、障害者施設も老人施設もありません。しかしこの島では、少なからず地域がこうした施設の役



(変貌する長坂バス停付近)

割を果たしています。例えば60代の息子と、身体の不自由な高齢の母親の、二人暮らしの世帯があります。この息子は毎日、島の中を歩き回ることを日課としていますが、亜熱帯の島ですので、真夏の真昼などは、暑さのあまり道端で倒れてしまうこともあるそうです。しかし、通りかかった島民が助けて家まで運び、決して大事に至ったことがないそうです。

このように、この島では施設がないゆえに障害のある方々も地域に根ざして暮らしていかなざるをえないわけですが、一方で、島の方々には子供の頃から障害のある方々などと身近に接し、その生活があるがままに受け入れていくことで、無用な偏見が生じることなく、子供の頃から、自然と他者に対する労りの気持ちを育むことができる、という指摘が教育の専門家からもなされているそうです。

様々な問題はあるでしょうが、ハンディのある方々が地域に溶け込むことにより、地域社会がより豊かになっていくのではないかと、そのようなことを施設に伺うたびに感じている今日この頃です。

横浜ふくしネットワークオンブズパーソン
司法書士 加藤 正泰

～ 施設の外へ～ 『入所者を地域社会の中へ』

偕恵学園の入り口に門扉ができた。だからといって、施設を閉鎖的にするためのものではない。その意義は、「ここからは外だ」という目に見える形としての一線である。

これを機に、利用者にも職員にも「外へ」の意識を持ってもらいたい。職員は「外へ」の共通認識を持って利用者が施設の外でも活動や生活ができるように促してもらいたいと思う。

「地域に開かれた施設」といわれるようになって久しい。まず、施設の設備などを地域の人に使って頂いたり、地域や施設の行事に互いに参加しあったりしながら地域の方々に障害のある方への理解と協力をいただくことは、その第一歩である。

施設利用者の地域移行をすすめている今日、改めてその意味を考える必要は大きい。学園も徐々にではあるがグループホームをつくり、地域生活移行の努力はしてきているが、施設職員が施設の外で積極的に仕事をなさねばなくなる将来に向けて、よりいっその意識の変革と努力が肝要である。

ところで、障害者自立支援法では、施設がどんな働きをするのかその機能を問う必要性から入所施設を「住まいの部分」と「日中活動の部分」に分け、更に「日中活動の部分」を福祉的な活動、自立訓練、就労的なものなどに分類するという。確かに、入所者の生活が24時間、施設の中の狭い空間のなかで完結してしまうことは開かれた施設とは言い難い。住まいの部分と日中活動の場所が分けられることは当然である。以前は、学園の作業棟は別の場所にあれ同じ敷地とはいえ、雨が振れば傘をさし、作業服でないものの入棟は許されず、リズムやメリハリのようなものがあつた。現在では、「住まいの部分」と「日中活動の部分」を入所者の環境への柔軟な対応性の欠如や加齢や機能低下を理由にして利用者の活動範囲をなれた施設の内ですだだ狭くしてしまう傾向がある。これは、改善せねばならない。

障害者の地域参加として思い起こされることは、30年ほど前、近くのダンボール工場へ作業を求めて何人かの入所者を連れ工場の中に仕事場をもらって通ったことである。そこに、企業内作業所のような場所が作られ、作業を通して外との関係が広がった。現在では、就労を前提に園外実習ができる人は多くはないが、逆に、障害が重いほど外へ出ることが難しいと思われる人ほど、どうしたら地域社会の人たちとの接点を持てるか、また地域の資源を活用できるか、ふさわしい環境に移れるかという課題を、職員は日常的にこの人たちと接する業務の中で考えていることが重要だ。

入所施設を単純に「住まい」と「働き」と時間的に分けても現状と変わりはないし、利用者の自立や地域移行を支援することができるのはグループホームや自活訓練の担当者だけではない。まず、施設職員が外への意識を持ちつつ日常の業務を利用者とともに地域で実践していくことである。確かに施設の内は安心で外に出ることは困難とリスクを伴う。しかし、そのリスクを恐れてはならない。利用者を「外へ」という職員の意識と姿勢の如何により個々の利用者の外への具体的な接点を見出せるはずだからである。それは、困難な摸索の連続であるが、利用者の自立を促し、自信や成果につながっていくことと思う。

園長 加藤 眞 一

お隣さん

地域交流～ひかりが丘ケアプラザさん～

私たち偕恵学園で生活している利用者さん、通所してくる利用者さんの地域との交流を紹介したいと思います。

ひかりが丘団地の中にある、「横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ」では地域福祉の輪を広げるため、ボランティア活動などを通し、交流を深めるための場とし、会議室やホールの貸し出しや、地域に根ざした自主事業を展開されています。そこで行なわれている地域交流事業のプログラムに参加させて頂いています。

現在、利用者Aさんは「転倒骨折予防教室」に楽しく参加中です。終わって学園に戻ってくると、今日はこんな事やあんな事をやっただとお話をしてくれます。

講演会や演奏会があると聞くと、見に行ってみようとするぞろぞろと出かけて行きます。落語やマジック、歌など見て聞いて楽しみ、時には生活習慣病の予防法などのまじめな話を聞き、「気を付けないといけいね！」と利用者さんに意識していただく機会を持ったりとさまざまなプログラムに参加させて頂いています。

その後は、地域作業所が出店しているケアプラザ内の喫茶カプカプにて、おいしいコーヒーを頂いて帰ります。そこで出しているコーヒー豆は、白根小学校近くにある「百屋」さんという有機栽培の品々を販売しているお店の豆を使っているとのこと。百屋さんには学園の利用者さんが実習の場所として大変お世話になっています。

今年で3回目になる11月に行なわれる予定の、ケアプラザが中心となり上白根地区社協、学童、施設などが、ひかりが丘ケアプラザにて「ひかり福祉フェスタ」を開催します。学園からは日頃、利用者さん達が作っている七宝焼き、陶芸品、ピーズアクセサリー、紙すき製品など出店する予定です。四季の森公園祭、旭区民祭、中山祭などにも製品を出店しております。バザーやお祭で売り上げたお金が、利用者さんの給料という形で還元されています。ケアプラザさんは、地域の中で地域の一員として暮らしている私たちのお隣りさんです。

<横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ>
事業紹介 お問い合わせ先： 045-953-6890
在宅介護支援センター 地域交流事業
通所介護事業 居宅介護支援事業



新グループホーム誕生

10月～

鶴ヶ峰に新たにグループホームが完成し、今、偕恵学園に入所している男女5名の利用者達は引越しの準備に期待を膨らませている。法人10ヶ所目となるホームの鶴ヶ峰(2)は、愛称(すみれ)とよばれ、バスターミナルの前の国道16号からちょっと入っただけだが、意外に静かな場所。敷地のちょっと上にもホームがあるのでにぎやかになるかも。ご近所の皆様、改めてよろしくお願ひします。

今春法人が開所

特別養護老人ホーム“椿寿”の紹介



「誰もが住みたくなるような・・・」

偕恵園では今年の4月に特別養護老人ホーム「椿寿(ちんじゅ)」を開所しました。この度はスタッフの皆さんにお話をお伺いしてきましたので紹介したいと思います。

椿寿では出来るだけ“家庭的な雰囲気”を大切にしたいと、定員100名ながら、生活空間を6フロアに分けています。各フロアは20名で、更に左右10名ずつの小集団でお過ごしされています。

入居されている方の暮らしぶりはそれぞれ



ですが、ホットケーキ作りや地域の夏祭りなどの参加、ボランティアの方との交流(エレクtoon、お話し相手など)などを楽しまれたり、7月はスイカ割り、8月は夏祭り、9月は敬老会など、その季節に合った催しもしているとのこと。

～・・・～【スタッフの方たちの声】～・・・～

その人のペースに合った介護を提供していく事を基本にお世話させて頂いております。



「長生きをしてきて良かった」と思われるような介護が出来ればと、日々努力しております。

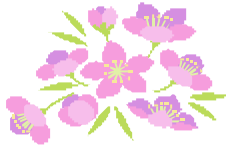
4月に開所したばかりで、地域の方々には色々ご迷惑をお掛けしている事もあると思います。近隣の方たちと共に地域生活を送るホームとして色々努力していくつもりおりますので、よろしくお願い致します。

介護者ペースの介護をしないように意識しています。

ショートステイ(短期入所)のご案内

家庭介護の都合により利用できる短期間の入所サービスです。ご家族の皆様へ代わり介護を必要とされるご利用者の日常のお世話をさせていただきます。是非ご利用ください。

【お問い合わせ先】 横浜市旭区上白根町792-4 : 958-1088 (担当: 相談課 山内)



偕恵学園からのお知らせ



学園恒例 *もみじ祭り*のご案内と献品ご協力のお願い

日時：10月16日(日) 10:00~14:30

会場：偕恵学園(四季の森公園南口駐車場隣り)

恒例のバザー模擬店、フリーマーケット等の催しを予定しています。

献品のご協力お願い致します。

学園の窓口までお届けくだされば幸いです。

*勝手ながら衣類は新品のみ、家具、本、電化製品類はご容赦下さい。

*献品受付、問い合わせ下さい。平日 9:30~17:00 担当：星崎・小山内

ボランティアさん大募集

利用者さんと一緒に活動してくれるボランティアさんを大募集しています。知的障害を持った方々と一緒に仕事をしたり、遊んだりして楽しく過ごしてみませんか？興味のある方は是非一度遊びに来てください。

受付：ボランティア委員会

短期入所のお知らせ

在宅されている知的障害を持った方が、一時的に施設をご利用頂く制度です。「宿泊を伴うもの」と、「宿泊を伴わないもの」のご利用方があります。詳細については、下記 担当者までご相談ください。

受付：嶋貫(しまぬき)

居宅生活サポート係

平成16年12月より、支援費制度による知的障害者ガイドヘルプサービスを始めました。ご利用、ご相談には懇切丁寧に対応してまいります。日常あるいは特別な外出の一助として、是非、ご活用ください。

ガイドヘルパーさん募集

知的障害のある方への外出支援のお仕事です。随時、募集しております。 受付：中橋

地域福祉のお店 緑区寺山町

ともしびショップ~四季の森~

県立四季の森公園売店

四季の森散策に 是非お立ち寄りください

県立四季の森公園内南口(駐車場代噴水隣)

TEL(045)931-7888

編集後記

暑い夏が過ぎ、夜風が涼しくなってきました。耳を澄ますと、虫たちの音色がなんとなく心地よく聞こえる季節ですね。これからも皆様 方に楽しんで読んでいただけるよう広報を作っていきたいとおもいます。

広報委員会一同



偕恵学園 TEL(045)951-3436